

飯塚市の子供達のために市民の一人一人が正しい歴史を学び、伝えて行きましょう!

saotomekai.fukuoka@gmail.com



保守系 市民団体 代表 石上ねねこ
さおとめかい 早乙女会

飯塚霊園内の「捏造」朝鮮人慰霊碑を撤去しましょう! 第二の「従軍慰安婦問題」にはしてはいけません!

飯塚霊園内の国際交流広場

捏造された歴史が記された慰霊碑

広場の壁面に設置された歴史回廊



飯塚市の飯塚霊園内にある「国際交流広場」に、日本人が朝鮮人を朝鮮半島から「強制連行」して、無理やり炭鉱労働に従事させたという歴史事実とは違う内容の石碑が建てられています。この石碑は、平成12年(2000年)12月に自治労関係者や在日韓国朝鮮人の団体等によって建立されました。この碑文の内容をめぐって碑文の修正や石碑の撤去を求めて早乙女会や他の市民団体が「国際交流広場」を管理する飯塚市役所と交渉を重ねてきました。また飯塚市役所も碑文の修正を求めて納骨堂や慰霊碑を設置した団体(国際交流広場無窮花(ムグンファ)堂友好親善の会)と碑文の修正等を求めて交渉を重ねてきましたが、未だに「碑文の修正」や「撤去」は行われておりません。このままでは、朝日新聞や韓国などによって捏造された「従軍慰安婦」と同様に、この歴史捏造が世界へ広められ、飯塚市並びに飯塚市民のみではなく日本の名誉が大きく損なわれる事と成ります。また、未来を担う子供達に飯塚市への誇りを持たせる為にも市民の皆様のご協力が必要です。

慰霊碑に刻まれている碑文です。

赤文字と赤下線の部分が問題がある箇所です

追悼文

先の戦争において日本の植民地政策により、数多くの朝鮮人と外国人が日本各地に強制連行されました。

ここ筑豊には15万人にも上る朝鮮人が炭鉱で過酷な労働を強いられ、多くの人びとが犠牲となりました。筑豊の発展と日本の近代化は、まさに朝鮮人をはじめとする外国人労働者の血と、汗と、涙なしでは語れません。

日本の敗戦により、朝鮮半島が植民地支配から解放され、半世紀以上が経過しました。しかし、いまなお筑豊の各地には多くの遺骨が放置されたままになっています。

「こうした遺骨を収集し、納骨堂を建立して追悼しよう」という呼びかけに共感した人びとの浄財ならびに各自自治体の協力によって、納骨式追悼堂を建立することができました。

21世紀を迎えるにあたり、歴史的事実をあらためて認識し、不幸な過ちを二度と繰り返さない決意をこめてこの追悼堂と国際交流広場を日本とコリア両民族はもとより、すべての人類が恒久平和を希求する発信地として意義あらしめ、世代をこえて守っていくことを願ってやみません。

2000年12月

在日筑豊コリア強制連行犠牲者
納骨式追悼碑建立実行委員会

『朝鮮人徴用工像』



最近の韓国国内で「慰安婦像」に代わって騒がれた。

◎石碑に記された碑文の間違い◎

【植民地政策は本当か?】

清の属国であった朝鮮は、日本が日清戦争に勝った事によって独立国(大韓帝国)と成りましたが、内政の混乱のために国を維持して行く国力が無く、国の行く末を案じた首相の李完用が「日本と朝鮮が一つに成って欧米列強の侵略を防ごう」と「合邦」を申し入れてきました。日本には反対意見もありましたが、世界各国の了解の下「合邦」が行われました。

よって、日本と朝鮮半島の関係は、一つの国が他の地域や国を支配する植民地政策ではなく、国同士が一つの国になって共に歩んで行きましょうという「併合(合邦)政策」でした。

【強制連行は本当か? 15万人の根拠は?】

戦前に朝鮮人が炭鉱で働いていたことは事実ですが、これは企業や役所による労働募集に応じたものでした。当時の朝鮮半島には農業以外の産業は少なく、大学卒初任給の二倍の給与がもらえる日本の炭鉱労働には、多くの朝鮮人が朝鮮半島から押し寄せ、その結果、政府による入国制限が掛けられるほどでした。

また、戦争中の朝鮮人の炭鉱労働は、国民の義務としての「徴用(※1)」であり、「強制連行」というのは何の根拠も証拠もない「ねつ造」です。更に「15万人」という人数にも何の根拠も示されていません。

※1「徴用」とは、成年男子の「徴兵」と同様に、その他の学生・婦女子に国民の義務として法律で課せられたもので、日本人は昭和14年7月から約6年間、朝鮮人は昭和19年9月から20年8月まで(実質は20年3月までの7か月間)の期間に実施された。当然、この徴用された期間には給料も支払われていました。

【炭鉱の労働とは?】

炭鉱の労働は、給料が高い事に比例して危険で過酷なものでした。しかし、その労働には女性も多く、15歳前後の子供も働いていました。主に男性(夫)が石炭を掘り、それを女性(妻)やその子供が運び出すというような、家族での役割分担が多かったようです。

当時の炭鉱は搬出された石炭の量に給料が比例する制度であったので、戦前の平時には、危険な炭坑の先端部で石炭を掘る作業は男性が行い、朝鮮人の徴用が始まった終戦の頃には、徴兵による男性の人手不足により、経験が有る日本人の女性が危険な石炭掘りを行い、炭鉱作業の経験が無い朝鮮人は石炭の運搬をしていたという証言(※2)が残されています。 ※2『炭坑美人』:筑豊の炭鉱で働いていた女性たちの証言を集めた本。

【朝鮮人炭鉱夫の遺骨は筑豊各地に放置されているのか?】

当時の炭鉱では多くの日本人が事故に巻き込まれて亡くなっていました。当然、朝鮮人にも犠牲者は出ていました。当時の炭鉱では危険な仕事に従事する仲間として日本人も朝鮮人も共に叩いていたようです(火葬が主だったようです)。また、終戦の間際に成って、船による朝鮮半島との行き来ができなくなるまでは、犠牲者の遺骨は故郷へと送られており、弔慰金なども支払われていたという記録もあります。また、終戦時の混乱によって引き取り手が見つからない遺骨については、炭鉱近郊のお寺に「安置」されていました。

【筑豊の発展と日本の近代化は外国人のお陰なの?】

筑豊地方や日本の発展と近代化は外国人労働者の犠牲の上ではなく、日本人自身の努力と勤勉によって成し遂げられたものです。よって「筑豊の発展と……涙なしでは語れません」の文章は、日本人への侮辱であり、間違った内容が記されています。

裏面もお読みください